

令和7年白老町議会議会運営委員会会議録

令和7年3月26日（水曜日）

開 会 午前10時00分

閉 会 午前11時00分

○会議に付した事件

協議事項

1. 第6次議会改革について
 2. その他
-

○出席委員（5名）

委員長	佐藤雄大君	副委員長	前田弘幹君
委員	水口光盛君	委員	氏家裕治君
委員	飛島宣親君	委員外議員	貳又聖規君
委員外議員	西田祐子君	副議長	広地紀彰君
議長	小西秀延君		

○欠席委員（なし）

○職務のため出席した事務局職員

事務局長	本間弘樹君
主 幹	小山内 恵君

◎開会の宣告

○委員長（佐藤雄大君） ただいまから、議会運営委員会を開会いたします。

（午前10時00分）

○委員長（佐藤雄大君） 本日の協議事項についてであります。1点目、第6次議会改革について、議員定数・報酬等と同日選挙についてであります。2点目のその他については、次回開催と令和7年議会報告会についてを説明させていただきます。まず、第6次議会改革について、あらかじめロゴチャットにお送りした定数減の正副委員長案と議員報酬案は一度つくって皆様にお配りしているのを修正しております。資料3が、町村議町会のアンケート調査結果になっておりますので、こちらを参考資料としてお送りしております。特に議員定数の正副委員長案、ほか報酬についてでもいいのですけれども、皆さまからご意見いただければと思います。こういった文言と追加してほしいとか皆さまと協議できればと思いますが、いかがでしょうか。

氏家裕治。

○委員（氏家裕治君） 今までの議論は集約されていると思いますので、このままで結構だと思います。

○委員長（佐藤雄大君） 水口委員。

○委員（水口光盛君） 会派みらいは、正副委員長案、追加等は特にないので、小数意見のことも書いていただいているので、このままで我々の会派はいいということをお伝えします。

○委員長（佐藤雄大君） 飛島委員。

○委員（飛島宣親君） 会派しんもこのままで大丈夫です。

○委員長（佐藤雄大君） 委員外議員のお二人、いかがでしょうか。

貳又委員外議員。

○委員外議員（貳又聖規君） 特にないです。今での議論がしっかりと反映されたのだろうと捉えています。

○委員長（佐藤雄大君） 西田委員外議員。

○委員外議員（西田祐子君） 西田でございます。最後のところの次期の選挙から適用すると書いているのですが、これを書くだけで本当に次期から報酬が上がるのかどうなのかということです。また、改選されたときに上げるべきではないと意見が強くなったときに果たしてどうなのかと思ひまして、その辺をきちんと次回から上げるのであれば上げるなりの、書いていだけで本当に上がるのかどうなのか1つ心配なのと、もう一つは次期の選挙から適用すると一応言っているのだけど、決めたらさっさとやったほうがいいのではないかなと思うものですから、本当に次回の選挙で上げられるのかどうなのか分からないので説明していただければと思います。

○委員長（佐藤雄大君） 今後のスケジュールの話もこのあとしようと思ったのですが、西田委員外議員からありましたので説明させていただきます。次期の選挙後から適用すること

で、今3月で6月会議で中間報告、委員会報告を定数と報酬について挙げて、9月の会議で条例改正の流れにしたいと考えていたのですけれども、条例改正して附則、開始日を次期の選挙後の日付にする形で条例改正をすれば、次期の選挙後からできなくなることはないと思うのです。私の言ったスケジュール感でいいのかどうかもお諮りしようと思っていました。内容については、正副委員長案で、また今のスケジュール感についてもいかがでしょうか。

水口委員。

○委員（水口光盛君） スケジュールについては、我々の会派が前に言っていたとおり、町民の意見を聞く、それが懇談会になるのか報告会になるのか分からないですけど、その辺を踏まえてそれをどのような形に盛り込んで委員長が言われたスケジュールになるのかを検討していただければという話しはありました。

○委員長（佐藤雄大君） ほかの方、いかがでしょうか。

氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 氏家です。基本的には委員長の言われたスケジュール感でいいと思うけれども、アンケートになると顔の见えない方々の意見。どうしてそういう考えなのかとなかなか聞けないのであれば懇談会で広報広聴常任委員会を動かすしかないのだけでも、広報広聴常任委員会の白老のコミュニティセンターの1か所でやるとなると、これはまた一定の人の声しか聞けない話になる。何も意味がない。では、議会全体で各地をにくまなく回るのかになるのです。そうなったときに、果たして広報広聴常任委員会、小委員会の中でも今いろいろ懇談会、報告会について進めていただいていますけども、それができるかの議論がどこまで進んでいるのか聞いていませんから分かりませんが、やるのであれば細かく、会場に足の運べない方々の対応等々も含めながらやるしかないのだろうなと。ただ文書、はがきで送って聞くのはナンセンスだと思っています。

○委員長（佐藤雄大君） 飛島委員。

○委員（飛島宣親君） 会派しん、飛島です。スケジュールは基本それでいいと思うのですけど、聞き方であったり内容であったり、もう少し議論したほうがいいと思います。

○委員長（佐藤雄大君） 本間事務局長。

○事務局長（本間弘樹君） 懇談会、報告会の話が出たので最後の議題に関係する部分もあるのですけども、前回の広報広聴常任委員の中で今年度の議会報告会については動画配信ということで去年は動画しかなかったのですけど、今年は説明資料を含めて作成をして報告するように一応進んでいます。懇談会については、秋口の9月か10月頃ぐらいに予定をしているということです。懇談会のタイミングで、秋口にそういったテーマで懇談をするかを皆さんに協議していただければと思います。

○委員長（佐藤雄大君） 氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 広報広聴常任委員会が今後の運営を考えているのであれば、報告会はいいと思うのですけども、懇談会の在り方については広報広聴常任委員会ですっきりと、うちとしては付託したほうがいいと考えています。持ち方についてもやるとする、小委員会の考え

が分からないですけども、もしやるのであれば細かくやっていただきたい。前回、新人議員の方々は分からないのですけれども、前回確か3会場、4会場ぐらいだったか。委員長の前の時代。それが最後の町民との面と向かっての対話形式の懇談会だったので、今回大事なことでやることになればやっぱり細かくやるべきだなと思っていますから、議会運営委員会からそういう意見があった話だけは出してもらえればと思います。そういう進め方で進めていただけるのであればよろしいのかなと思っています。

○委員長（佐藤雄大君） 広地副議長。

○副議長（広地紀彰君） 私、広報広聴常任委員会の小委員会も兼ねているので、その中で各委員からおっしゃられたように広報広聴常任委員と連携を別にすべきは全くそのとおりだと思います。一応、過去の経験を踏まえて聞くというのは大変大事なことです。私も全く否定しません。ただ、聞き方が非常に重要で、氏家委員が具体的におっしゃったとおりで、現実的には聞く、アンケートは匿名なので好き勝手にものを言える。それは馴染まないではないかと私も経験上や過去に取ったアンケート見ても明らか。では懇談会でいいのかもきちんと議論したほうがいいです。結局、細かくすると3回以上、5回以上ないし10回以上に増やすと、それは一定程度の効果が期待できますが、結果的にそこに足を運んでくださった人の意見なのです。ですから、多く町民の人の声をどう聞いていくかは真剣に考えていかないといけないから、今日は基本的な大枠のスケジュール感として委員長がお示しいただいた中味でどこかに石を置いていかないとダメなので、スケジュールを今回提出されたには私も賛成しています。ただ、その中身に沿って広報広聴常任委員と一緒にきちんと考えていかないと、聞き方がすごく大事だし内容も大事です。ましてや、今回は懇談というより今日、正副委員長案で決まります。秋口までには決定しています。懇談というよりほとんど説明会なのです。こういうふうに決まったこと町民に理解してもらおう中身になります。決まっていないことを、皆さんの意見を反映してどうこうではないです。懇談会が本当にいいのかも含めて、きちんと考えて対応していかないといけないと思います。

○委員長（佐藤雄大君） 暫時休憩をいたします。

休憩 午前10時14分

再開 午前10時24分

○委員長（佐藤雄大君） 休憩を閉じて会議を再開します。

水口委員。

○委員（水口光盛君） 会派みらい、水口です。我々の会派だけが定数、報酬に関しても同意していない。それで委員長、副委員長案が出て来ていることで責任も重いと思っているのです。ただ、我々の会派としては何を尊重したいかという、町民と情報共有して町民参加を諮って不断の議会改革を推進することが自治基本条例に載っているので、それにのっとり町民参加、町民の声を聴く場が必要ですねと提案なのです。その辺だけを議会運営委員会の中で考えていただければ、議論していただければという思いです。ですから、やり方についてはいろいろ

あると思うので、この辺を議論して定数削減のこと、議員報酬を上げることを町民に説明ができればという思いです。

○委員長（佐藤雄大君） 氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 氏家です。いろいろなやり方があるので、いずれにしても丁寧にこれを進めていかなければいけないデリケートな問題だと思いますので、報告会の中で議論が活発になって条例改正に向けて議会運営委員として動いる話で、どれだけの方々がそれを見るかだと思うのです。いずれにしても、最終的には議会懇談会等々を開いたときには、今回ではなくても決定したにしても、町民に対しての説明責任は当然出てくるわけですから、しっかり議論した内容について説明はしていく場が設けられる。そこで何言われるか分からない、私たちも何回もこういう懇談会は経験しながら経験値と言わせてもらおうと、いろいろなこと町民から言われるのはあたり前の話で、その中でどうちゃんとした説明をして、それを町民生活向上のために議会がどう動くかが一番大事なことから、それさえ忘れなければどういうやり方をしてもいいと思います。

○委員長（佐藤雄大君） 飛島委員。

○委員（飛島宣親君） 飛島です。私は新人議員で、昔そういったことをやっていたことは大体の想像しか分からないのですが、先ほど貳又委員外議員が言っていましたけど、報告会までにここで決まったことをユーチューブで6月1日に議会運営委員会として流すのですか。よく分からなかったのです。

○委員長（佐藤雄大君） その他の説明でも皆さんに確認したかったと思うのですけれども、休憩中に令和6年度の活動報告をロゴチャットに皆さんに送っているのですけれども、パワーポイントの資料5になります。こういった形で進めていく流れで、まず6月1日に配信することでおそらく広報広聴小委員会で話されたと思うのです。その中で、説明する動画の中に報酬案や定数案のことを入れたらどうだろうという意見が先ほど休憩中にいただいたもので、私もそういったことでまず共有することは1つの手法としては有効なのかなと思いましたので、それはやってみてもいいかと皆様にお諮りしようかなと思っていた経緯であります。

飛島委員。

○委員（飛島宣親君） 飛島です。委員長からなので納得しました。やったほうがいいと思います。

○委員長（佐藤雄大君） 広地紀彰副議長。

○副議長（広地紀彰君） 今うちの会派から意見出ましたし、休憩中ではありますが委員外議員の皆様から具体的なお提案いただいたので、とりあえず現時点での結論ではなくて、現時点での整理が必要だと思うのです。まずは、懇談がなじむのかどうかは考えるべきだと思います。はっきり言わせていただくと、ほぼ決定というか今日正副委員長案決めるのです。そして各会派から正式メンバーの皆様全員から賛同いただいています。まだ決定という申告ないですけど、これは決定です。今日決定するのです。決定する中身に関わって懇談をする。懇談の意味は、親しく打ち解けて話し合うことで、今この段階で正直第6次改革というよりも、第4次からし

か知らないですけどずっとやっています。ずっとこの議論続けてきたのです。それが最終的に今回の第6次議会改革の中で一応一定の方向性に対して懇談するのはどうかと意見が大勢だと思います。委員長から今回の報告会で取り上げるのは、確か6月1日配信は今日決まった議会運営委員会で大事なことなので、それを入れ込むのは当然のことかなと思いますし、ただ今お話したとおりでこれをしっかり理解してもらわなければいけないとか、町民の意見を妨げる意見は皆さんなかったです。ちゃんと説明すべきだという意見や今までの議会改革の趣旨も尊重すべきといった意見は全くそのとおりだと思うので、まず今回報告は報告として、ちょうど6月にタイミングが合うのであればそこに挙げられるわけですし、一定限とりあえず事実をきちんと明らかにすべき。そののち懇談がなじまないのであれば、説明をどういう形でやっていくのかとかをきちんとまた別途考えてくれたのではないかという意見が大勢ではないかと捉えています。

○委員長（佐藤雄大君） 水口委員。

○委員（水口光盛君） 会派みらい、水口です。委員長、副委員長の報告は、議会運営委員会の中でこういうことを正副委員長案で決まりました。ただ、少数意見として我々みたく4減で定数10と言っているところは、こういう意見もありましたよと町民に多分これから説明、報告をする。懇談会はちょっと置いといたとしても、町民参加の部分を担保してもらって町民の声を聞きました、そして条例提案します、採決しますという流れだと我々の会派は思っているの、最後は条例改正だと思っているので、そこで昨日か一昨日登別市みたいな例もあるので、登別の例を見ると報告会か懇談会をやっても何人も来なかったという新聞記事もあるので、それを踏まえて議論して町民の意見をどうやって聴取、反映しますかと議会運営委員会の中で話したほうがいいのかで会派の意見なので、話す場になっているので、また会派に持ち帰ってこういう意見でしたにするのか、どうするのかを決めたらいいのではないかなと思います。

○委員長（佐藤雄大君） 氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 氏家です。委員長、副委員長案の中にも入っているけれども、厚真町にしても苫小牧市にしても、この議員報酬議員、議員定数の問題については市民とか彼らの意見は聞いてないと思います。議会の中で議論して議会の中で決めて、そして議会の説明責任はどうなるか分かりませんが、議会の責任の中でやっていることだと思います。ですから、水口委員の言う自治基本条例にのっとったやり方でやるとすれば、何らかの説明責任はどこかで必要になってくると思います。いずれにしても、決めた後になるか決める前にするのか、それはこれから委員長、副委員長案は出て来ているわけですから、それに対して誰も反対はなかったの、これで進めていく中で今後の考え方の中に説明責任を果たす進め方は一つの手法なのかなと思っています。だから懇談会が全てではなくて確かに決める前に本来聞くべきだということもあるのでしょうけども、多くの自治体の中身を見ると、今回議員報酬、議員定数についての議論では、議会の中で決めて来てるいいことなのではないのかと考えていますので、そこにこだわることはないのかなとも思っています。

○委員長（佐藤雄大君） 西田委員外議員。

○委員外議員（西田祐子君） 委員外議員の西田でございます。6年前に、前回、前々回の議会運営委員会の中で議員報酬を上げると決めました。その時点では、すでに町民の皆さん方に議員報酬を上げることについても意見を聞いております。そういう中で、上げましょうと決めたのです。そして、次の選挙のときから議員報酬を上げます。上げるべきであると決めたのです。つまり町民説明もしているし意見も聞いている。本来であれば、6年前にきちんと遡って決めたのだから上げなければいけなかったのですが、たまたまコロナになったものだから、こういう緊急事態のときに議員報酬を上げるのはいかなものかとなってしまうと、そんな話がなくなってしまった過去があります。今回改めてまた議員報酬を上げてまた議論している。過去に一度議論して町民の意見を聞いて上げましょうと決めたのに、なおかつまた議員が代わる度に、今言ったようにほかの会派がいや町民の意見を聞くべきだとなってしまうと、結局6年前に決めたのに、そのあと選挙で改選されたら議会運営委員会の中で町民に聞くべきだから今上げるべきではないという意見になって、また先延ばしになった。常に議会運営委員会はこれを繰り返してきているのです。もういい加減に町民の人達も議会はまだ議員報酬を上げるべきだという考え方が10数年前に飴谷町長が意見を出されたときからずっと課題になってきているのを、今やっとこの中で議会の総意として報酬を上げるところまで来て、今また決めようとしているのにまた一に戻るのかと、私から言わせるとそういうふうにはしか聞こえないのです。ですから、一度自分たちが決めたと言ったのだったら最後は議会報告会で報告して、こう懇談会でもやって決めさせていただきまして、よろしく願いますと町民に説明するしかないのです。今更聞いてまた一からやり直すのですか。私は反対に、今までやってきた議会運営委員会の中で努力してきたもの、広報広聴常任委員会の中で町民説明して努力してきたものは一体何だったのかと申し訳ないのですが言わせていただきます。

○委員長（佐藤雄大君） 貳又委員外議員。

○委員外議員（貳又聖規君） 委員外議員であります、私のイメージをお伝えします。まず、6月1日に報告会を動画配信します。それは本当にとってもいいことだと思うのです。白老町は町民と行政との協働のまちづくりを推進してきて、その中から自治基本条例もしっかりと生まれているわけです。そんな中で、次のステップでまた報告会をやるのはありだと思うのです。これは私のイメージなのですが、よく我々洞爺町に行って管内議員研修会で勉強会をします。そういう先生方来てくれて、これからの議会のあるべき姿だとか全国の状況、議会の状況だとかお話いただくじゃないですか。そういうお話もぜひ町民の方々に聞いていただきたいと思うのです。私のイメージは、白老町のまち、未来を考えるこれからの議会の在り方フォーラムのようなのをコミュニティセンターのような大きな会場でやるわけです。そこに先生方も来ていただいて、私たちはこれから目指す議会は本当に議会議員のなり手不足、もっともっと子育てして女性の方だって議員になっていただきたい思いもありながら、今回定数は削減しますけれども報酬も上げながら、議員の活動の在り方も変わってきています。皆さんお仕事もありながらも上手い具合に今ズームでつながりながらいろいろ遠隔でもやれたりしています。議会活動のやり方も変わっているではないですか。そういうことも町民の皆さんに発信する何か本当に一

緒に皆さんとまちを考えるフォーラムも一つだと思うのです。ただ、私がこれを反対するのは、次のステップの懇談会で定数と報酬問題だけであれば難しいと思うのです。我々議会はこれから町民の皆様と一緒に手を携えながら進めていく議員の在り方の中で報告会もフォーラムやる。ある議会、アメリカのポートランドの議会見たら、月に1回市民の方が議場に来て私の悩み聞いてくださいということをやったりするのです。そういうことが議会改革に反映することも私たちはやりたいのだと報告会みたいな位置づけがいいと思うのです。報酬問題と定数問題だけだったら寂しくないですかと思うのです。ですから次やるのであれば、次のステップの報告会は私たちが示す白老町議会のあるべき姿を皆さんにお示しして一緒に白老をつくっていきましょうよというくらいの報告会がいいと思います。

○委員長（佐藤雄大君） 各委員と各委員外議員から様々なご意見いただいたのですが、前後してしまうのですが、先ほど言っていた令和6年度の活動報告を令和7年度の議会報告会で実施するという点に関して、ここまでの議会運営委員会の議論を報告会に反映する形は皆様にまずお諮りしたいのですけれどもいかがでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤雄大君） 正副委員長案を含めて報告することはいいと思うのです。そのあと、今さまざまな意見ありましたけれども、実際にもう決まっていることなので、懇談会とかたちはおそらく適切ではない、なかなか難しいのではないかなと思うのです。それを説明する報告会なのか説明会なのか、何かしらのその方法はやらなければならないことを皆さんおそらく同じ意見だと思うのです。そこを小委員会と相談して報告会でやるのかもしくは別でやるのかを今後また、ここで多分今なかなか難しいかもしれないので、その後決めていく流れで進めていきたいなと思いますがよろしいでしょうか。

氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 今の委員長の言われたことを前提に、これから広報広聴常任委員長と議会運営委員長含めて一度その辺の話を土台に今年7年度に始める報告会なのか、もしくは次の報告会に持って行くのか、時期的なものも含めた形で一度議論していただければいいと思います。議会運営委員会でこういった議論が進んでいるのだけど、どうだろうかというところからの始まりでやっていただければ私は結構だと思います。

○委員長（佐藤雄大君） 水口委員。

○委員（水口光盛君） 氏家委員がおっしゃったとおりで、まず広報広聴常任委員会の正副委員長そして議会運営委員会の正副委員長と話してもらって、私も会派に持ち帰ってもう一回話してこういう方向になるのではと話した中で、田上議員も広報広聴常任委員の副委員長ですから、その中で話せばいいのかなと。やはり議論することが大事だと思っていますので、やり方を議論して、こうだと決めるのではなくて、広報広聴常任委員会の中で報告会、説明会の形をやるのがいいのか、広報広聴常任委員会ではない、議会運営委員会の中でやってくださいという話になるのか、それはもう一回に持ち帰って今後のスケジュールも打ち合わせしたいと考えております。

○委員長（佐藤雄大君） 広地副議長。

○副議長（広地紀彰君） 付帯意見として、お二人の言うとおりです。私が言いたかったのは、議会報酬と定数の問題を説明会ということではなくて、私たちの趣旨は次の議会はどうつくっていくかということで、なりて不足だとか同日選挙のことも含め、いろんな改革をしていく中で次の議会をどうするかを話し合ってきたのです。一応確認としてこれまでの取組をきちんと説明したり合意できる場にすべきだと付帯意見もありました。

○委員長（佐藤雄大君） 7年度の動画配信はいろんな議論を踏まえたことも全て含めて報告する。そこに定数案も報酬案もあることになるかなと思いますので、そういった形で進めていくということによろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤雄大君） それでは、定数と報酬案については、ほかに何かその他意見等でございますか。

水口委員。

○委員（水口光盛君） 正副委員長案に対しては、我々会派はこのまま進んでくださいということで議会運営委員会の中でもお示ししております。先ほど言ったように、町民の参画、意見や声を聞いて、最後に条例改善の中で議論するところは議論すればいいと思っていますので、このまま進んで行かれていいと思います。ただし、先ほど言った広報広聴常任委員会の話の中で広報広聴常任委員会もありますので連携しながらやっていかないと議会運営委員会だけで進めるのは無理があるかなと思いますので、その辺だけお願いして我々の会派はそうように報告したいと思っています。

○委員長（佐藤雄大君） 続いて、同日選挙について、おそらく各会派からの意見は変わりないかなと思うのです。

氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 氏家です。ここの考え方でよくよくずっと考えるのだけでも、当初の議論の目的は前回の町長選だったのです。戸田町長が道議会選挙に出ることで前倒しの選挙だった。そこに選挙になる環境ができたのです。それに合わせて私たちも議会としての統一地方選を目指す中で進めてきた話、ずっとそう思ってきた。でもよくよく考えたら変な話、次回の町長選の選挙になるのかならないのか今から分からないです。ないかもしれない、あるかもしれない。でもないとなったら、議会だけでは選挙する話になる。統一地方選で道議会議員選挙は当然あるかもしれない。道議会議員選挙と一緒に今まで3つあった選挙を2つにすることも、その意義が確かにないわけではないのだけでも、当初議論してきたものとは外れる感じもするのです。自分で言ってもなかなか理解しづらいところもあるけども、町長選は環境によってはいつあるのか分からない。そこが何かすごく最近疑問です。選挙になる年に議会議員選挙も一緒にやるとなったら直前にならないと分からない話になってくるのではないかなと思ったりするのです。そうであるのだったら、今この議論を議会運営委員会でする話になるのか。会派では賛成になっているのだけど、それは前回も町長選を踏まえた中での賛成意見、今後こう

あるべきという考え方だった。よくよく考えたら、何かそれに対してはもう少し議論したほうがいいのではないかと考えているのです。そこは皆さんはどう思っているかなと思っています。

○委員長（佐藤雄大君） 水口委員。

○委員（水口光盛君） 会派みらいです。氏家委員が言われていたことは、我々会派で最初話したとき前田議員から同じ話が出たのです。前は町長選挙と一緒にやることで時間もなかったこともいろいろあった中で出てきた話で、町民から要望か何かあってそう議論した話であるけど、今回はその要望も今ない。そして、議会運営委員会の中で話す。町長選がなかったらどうするのだと話は前からあって、だったら一緒にやることはどうなのだと議論があったのです。その中で、我々としては反対でずっとやってきた経緯がありますので、首長が退任するとか病気になる、交通事故に遭う、変わった、すぐやるとなるのか。それがもう1回皆さんと議論しながら。ただ、我々も皆さんと議論して決めていくのはいいと言っていますので、その辺の議論が必要なかなと思っています。

○委員長（佐藤雄大君） おそらく皆さまの意見的には3月に前回ありました。4月に1か月ずらせる、4月に持っていけるから全部統一選として4月にできるという話だと思うのです。毎回辞めるたびに話は多分出て来てなくて、4月にできるところが多分基準になってくるのかと気がするのです。そういう認識でいたのですけれども、そこが前提かなと思う。確かに町長選あるのか、道議選も含めてどうかは確かにあるかもしれませんが、仮になくて町議選だけだとしても人件費の削減という可能性はあるかなと。この試算はしてないので分からないですけど、あくまで同日選においての試算はしています。

○委員長（佐藤雄大君） 水口委員。

○委員（水口光盛君） その前提を確認したいのですが、氏家委員がおっしゃった町長選そして道議選、一緒に町議選もこの3つをやる前提の話でよろしいですか。そうですね。1回会派に持ち帰りますので、今回前提が初めて。我々は認識が違ったのか分からないですけど、そういう前提で議論をすることで会派に持ち帰らせていただきたいと思います。

○委員長（佐藤雄大君） 小西議長。

○議長（小西秀延君） 議長からの諮問の形もこの課題に対して出させていただきます。町長選があるかないかと言ったら、選挙自体はあるかないか分かりませんが、選挙の準備は必ずされるのです。お金も執行されるのです。相手候補がいようがいまいが。その中で各候補者が持つ経費は1人になるか2人になるか分かりませんが、任期が切れるので選挙があることは確実なのです。ある程度その出費はされていくのです。統一地方選があってもなくても。それに合わせれば、町長選、議員分が経費ダブルになっていくことは変わらない部分が多いと思います。選挙戦自体にかかる経費は個人持ちですけども、あってもなくてもある程度経費は任期切れでかかってきます。そこはあまり重要視しなくてもよろしいのではないかなと。ある程度の経費は、必ず町長分、議員分、選挙があってもなくてもかかっていきますので、その経費として考える部分はそんなに考えなくてもよろしいのかなと。ただ、それが1回だけではなくて今後も変わっていくことも町民にとってもまた大きいのかなと。1回の選挙

としての労力で済む労力の軽減も考えられますので、そこは整理しておいたほうがよろしいかなという思いでいました。

○委員長（佐藤雄大君） 氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 分かりました。その辺の考え方が、あくまで統一地方選に向けたうちの議会としての今後の取組。そういった形の中で議論が進むのであればよろしいかなと思います。それにしても、これはデリケートな問題で、前も言ったとおり3人以上の反対者がいれば否決されることが分かっているの、否決が分かっているながら上程をする意味は何もないだろうと思いますから、一応考え方は分かりました。

○委員長（佐藤雄大君） 水口委員。

○委員（水口光盛君） 事務局に資料のお願いだったのですが、次の道議選があつて町長選があつて町議選をやるという、まとめた資料をここに一緒にしたらこういうイメージで考えている何か資料を簡単につくっていただけると話が早いのかなと思うので、すいませんが先ほど言った前提を統一することをお願いします。

○委員長（佐藤雄大君） おそらく、その際の町長選、道議選、町議選があつたときの経費の部分、全くなかったときの経費の部分、それを別々にやったときの経費が分かればもっとより議論になるかなと思います。

そのほか、同日選挙についてございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤雄大君） では、前提を皆様に改めて統一選と資料を次回まで用意してくることにしたいと思いますので、そういう形で進めることでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤雄大君） 2点目、その他、次回開催について皆様にお諮りしたいと思います。4月の皆様の予定がいろいろ入っているみたいなので、21日の週ぐらいのどこかでやりたいなと思うのですけれどもいかがでしょうか。この日はだめだというのがあれば伺いたいです。4月24の木曜日10時からでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤雄大君） その日程で次回開催の日程といたします。最後に令和7年議会報告について、先ほど少し説明あつたのですが、事務局から説明お願いいたします。

○事務局長（本間弘樹君） 資料4と5になります。議会報告会に変えて令和6年度の活動報告ということで議会運営委員会、総務文教常任委員会、それから産業厚生常任委員会の各委員会でそれぞれ動画を作成して配信することで、去年は動画のみの配信だったのですが、令和5年度まで実はパワーポイントで活動報告の資料を作成してまして、それを動画とセットで流すイメージになっていました。イメージの映像が資料5になるのですが、資料6パワーポイントのデータ、このようなイメージで1年間の活動報告をするかたちで今年度考えていました。パワーポイントの資料を正副委員長でつくっていただきましたら、頭に委員会の皆さ

んに入っていて、全体で動画を撮影して、説明については委員長、副委員長から説明していただく方向でイメージして考えておりました。

○委員長（佐藤雄大君） 2点目の令和7年度議会報告について何かご質問等ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤雄大君） それは全体を通して何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎閉会の宣告

○委員長（佐藤雄大君） これで、議会運営委員会を閉会いたします

（午前11時00分）